

科目名	地学 I	年次	2	単位数	3	担当者	
<b>1 目標</b>							
<p>地学的な事象・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する観察や探求心を高め、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や理念・法則を理解し科学的な自然観を育成する。</p>							
<p>(1) 固体地球とその変動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地球とそのなかまの天体と惑星の誕生の過程を知る。</li> <li>② 地球の概観、内部構造を知る。</li> <li>③ 地球の活動（プレート、地震、火山等）について知る。</li> <li>④ 地殻を構成している火成岩、変成岩、堆積岩について知る。</li> </ul>							
<p>(2) 地球の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地形や地質から過去の変動とその特徴を知る。</li> <li>② 地球の歴史を学び、生命の進化を知る。</li> </ul>							
<p>(3) 大気・海洋と気象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 大気圏の構造や雲の発生過程を学び気象現象をメカニズムを知る。</li> <li>② 風の起こる原因を学び、大気の運動を知る。</li> <li>③ 日本の天気を移り変わりを理論的に知る。</li> <li>④ 海洋とその運動を知る。</li> </ul>							
<p>(4) 宇宙の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 太陽と惑星の運動について学び太陽系の仕組みを知る。</li> <li>② 恒星の性質と進化について学ぶ。</li> <li>③ 銀河系の構造とそれを取り巻く宇宙の構造について知る。</li> </ul>							
<b>3 使用教科書・副教材等</b>							
<p>教科書「地学 I」(啓林館)</p> <p>副教材(問題集)「リードα」(数研出版)</p>							
<b>4 成績評価の観点・方法</b>							
<p>評価の観点は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「観察実験の技能・表現」、「知識・理解」です。評価の方法は、各種テスト(定期考査・一斉テスト・小テスト等)・提出物(ノート・プリント等)・出席状況・授業態度(教師による観察・課題プリント)などを総合的に評価します。考査では、得点だけでなく、他の人があまり解けていない問題を解いている等の場合はチェックしています。授業中の机間巡視では、「講義内容を理解しているか。」「教科書丸写しでなく自分なりの言葉でまとめようとしているか。」「分からないことを放置しないできちんと質問できているか。」「真面目に課題に取り組んでいるか。」を見ています。</p>							
<b>5 学習者へのメッセージ</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地学は、私たち人類の生活と密接な関係にある地球や宇宙についての科学である。46億年という長い歴史を通じ、どのようにして現在の環境が作られてきたか、現在の状況についての自然科学的な知識は、地球の平和な将来を計画するためにもきわめて大切な学問といえます。</li> <li>② 丸暗記するだけではおもしろくありません。疑問を持ち「なるほど」と理解すれば地学はおもしろい科目となります。地学的な事象・現象は単独で起こるのではなく多くの事象が関係しています。関連づけて理解すれば暗記も容易になります。</li> <li>③ 理科の中では、あまり細かいことに気を使わない科目かもしれません。時間・空間のスケールが大きく、億年や光年、天文単位と日常使わない大きな単位を扱います。また、細かな計算問題もなくセンター試験では得点しやすい教科であることも事実です。</li> <li>④ 分からないことは貯めてしまわずに、すぐ質問しましょう。「この説明のここが分からない。」という質問が具体的なほど理解が深まります。</li> <li>⑤ 問題集や模試は解答だけでなく解説もきちんと読みましょう。</li> </ul>							

6 学習計画及び評価方法等

月	単元（章，節など）	学 習 目 標	備考（到達目標 評価等）	
4	<b>個体地球とその変動</b>			
5	1章 太陽系の中の地球	①惑星の特徴をが理解できてる。	計算方法の理解 (リードαで確認)	
5	2章 地球の形と構造	②地球の大きさの測定方法が理解できている		
6	3章 現在の地球の活動	③地磁気、重力が理解できている。 ④地球内部構造について理解できている。 ⑤アイソスタシーの計算ができる。		
7	4章 地殻の形成	⑥地学現象がプレートの動きにより起こることが理解できている。 ⑦地震のメカニズムとその被害について理解できている。		
9		⑧断層、褶曲などの地質構造について理解できている。 ⑨溶岩の性質、噴火活動、火山の形の関係が理解できている。 ⑩堆積岩、変成岩、火成岩について理解できている。		
10	<b>地球の歴史</b>			走向、傾斜の計測ができる 作図ができる (リードαで確認) 時間的な流れの理解 (リードαで確認) グラフの理解 (リードαで確認) 風にかかる力の作図ができる (リードαで確認) (リードαで確認)
11	1章 地球史の読み方	①クリマターの使用方法が理解できている。 ②走向、傾斜が理解できている。 ③地質図の見方が理解できている。 ④地質図の断面図を書くことができる。		
11	2章 地球と生命の進化	⑤時間的な概念が理解できている。 ⑥地球環境の変化と動物、植物の進化の過程が理解できている。		
12	<b>大気・海洋と気象</b>			
1	1章 大気と水	①大気圏の構造について各層の特徴が理解できている。 ②水の役割、循環について理解できている。 ③雲の形成と降雨の仕組みについて理解できている。		
1	2章 大気の運動	④地球の熱収支について理解できている。 ⑤風（地上風、地衡風）について理解できている。 ⑥高気圧、低気圧について理解できている。		
2	3章 日本の天気	①日本の気候に影響を与える気団について理解できている。 ②各季節の特徴が理解できている。		
3	4章 海洋と気候	①海洋の構造について理解できている。 ②海洋のはらたきが理解できている。 ③エルニーニョ現象のメカニズムが理解できている。		